

令和6年度 実習に関するアンケート結果



報告内容

I. 受講者アンケート

- ① 実習指導内容についてよかったです
- ② 改善が必要だと感じた点
- ③ 実習全体を振り返っての感想

II. 指導者アンケート

- ① 指導内容についてよかったです
- ② 改善が必要と感じた点
- ③ 実習全体を振り返っての感想

I 受講者アンケート

①実習指導内容についてよかつた点

実習指導の「よかつた点」を支える3つの柱

1. 徹底した「実践」体験とフィードバック

現場のリアリティを追求した指導が、机上の知識を実践力に変える最大の要因となっている

- コアプロセスの網羅的体験:
- 個別的・集中的な指導:

実習指導の「よかったです」を支える3つの柱

2. 専門職としての「姿勢・連携」の体感

指導者や他の専門職の「働き方」を間近で見た経験が、介護支援専門員としての専門性と倫理観の基盤を築いている

- 模範となる指導者の姿:
- 多角的な連携・社会資源学習:

5

実習指導の「よかったです」を支える3つの柱

3. 安心できる「環境」と「配慮」

不安を感じやすい実習期間中に、受講者が安心して学べる環境が整備されていたことが、学習への集中を促した

- 質問しやすい雰囲気と丁寧な対応:
- 明確な実習計画と準備:

6

実習指導の成功を導いた3つの要素

1. 指導者の「人となり」と個別指導の質
2. 広範囲な「社会資源」と「多職種連携」の可視化
3. 理論と実践のギャップを埋める「協働的学習環境」

この実習指導は、単なる知識伝達ではなく、実践を通じて受講者に自信、やりがい、そして専門職としての心構えを与え、今後の業務への大きな一歩を後押しするものとなった

7

I 受講者アンケート
②改善が必要だと感じた点

実習指導・研修全体に対する改善課題

- 1.期間・日数に関する課題（時間的制約）**
- 2.事前準備と実践機会の深さに関する課題（内容の質）**
- 3.研修カリキュラム全体に関する課題（座学と実習の連携）**

9

指導体系の「構造的」改善の必要性

- 1.実習期間の延長と日程調整の柔軟化（最優先課題）**
- 2.事前学習の徹底と実習前後の指導の標準化**
- 3.座学と実習の役割分担の明確化**

10



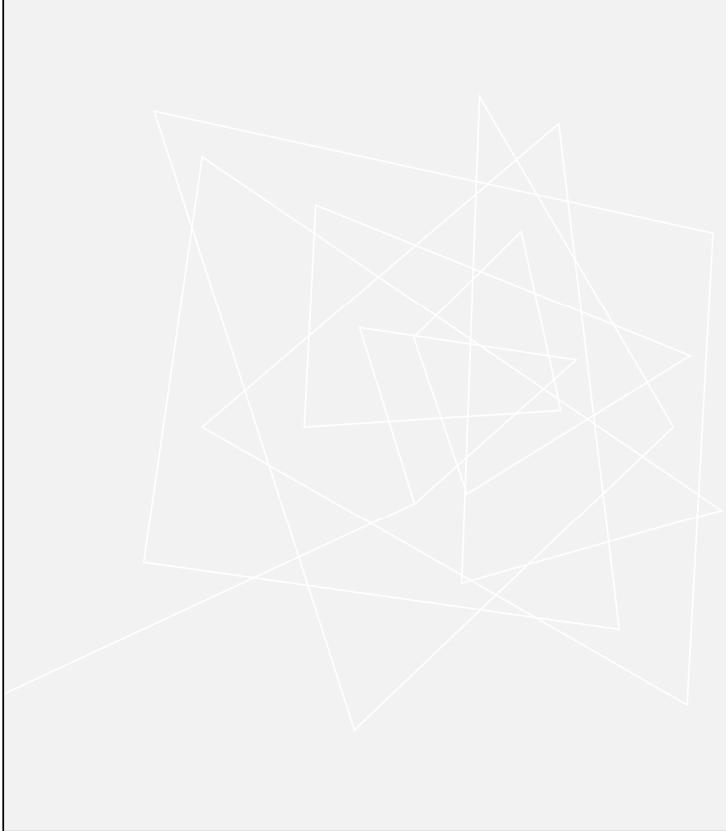
I 受講者アンケート

③実習全体を振り返った感想

1. 現場体験による「専門性の体得」と「やりがい」の発見
2. 自己の課題の明確化と今後の学習意欲の向上
3. 時間的・構造的な制約による課題

この実習は、受講者に「やりがい」と「覚悟」、そして「具体的な課題」を与え、介護支援専門員としてのキャリアをスタートさせるための価値ある経験となった

11



II 指導者アンケート

①指導内容について よかつた点

指導者の自己成長と実習の質の担保

1. 指導を通じた「自己評価と振り返り」の機会
2. 受講者の「意欲と準備」がもたらす相乗効果
3. 指導環境と体制の有効活用
4. 受講者との交流による「新たな発見」

実習指導成功の二重のメリット

1. 「教えることによる学び」の実現
2. 意欲的な受講者と体制の相乗効果

13

Ⅱ 指導者アンケート ②改善が必要だと感じた点

指導者が直面する構造的・時間的課題

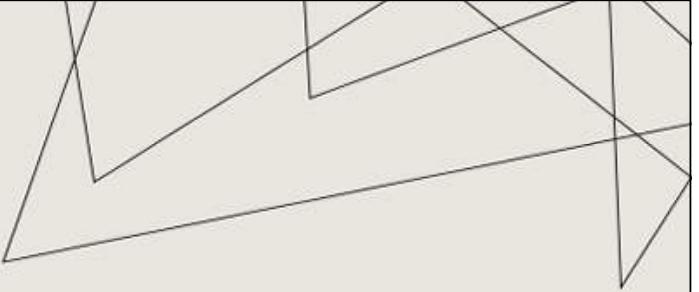
- 1. 時間と業務負荷の集中（最大の課題）**
- 2. 受講者とのコミュニケーションと事前準備のギャップ[°]**
- 3. 指導内容とカリキュラムの構造的課題**

指導者の負担軽減と実習の効率化への提言

- 1. 指導時間の確保と負荷の軽減**
- 2. 実習前の情報連携の強化**
- 3. 指導ツールの改善と支援**

15

Ⅱ 指導者アンケート ③ 実習全体を振り返っての感想



実習指導者が実感した「専門職としての意義と責任」

1. 専門職としての自己成長と初心の再確認
2. 意欲と実践力のある受講者への期待と懸念
3. 構造的な課題と指導者のジレンマ

実習指導は、受講者に「ケアマネの大変さ」と「やりがい」の両方を伝える重要な場であり、指導者はその狭間で、自己の業務の質を維持・向上させながら、未来のケアマネを育成するという重責を担っている